

研修No. 87

2022年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2023年2月22日
研究・研修課題名	心臓リハビリテーション指導士資格更新のための研修補助
研究・研修組織名(所属)	島根大学医学部附属リハビリテーション部
研究・研修責任者名(所属)	佐藤慎也(島根大学医学部附属病院リハビリテーション部)
研究・研修実施者名(所属)	黒崎育美(島根大学医学部附属病院リハビリテーション部) 福原翔(島根大学医学部附属病院リハビリテーション部)

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input checked="" type="checkbox"/> 単位取得 <input type="checkbox"/> その他の成果()
該当者名(所属)	佐藤慎也(島根大学医学部附属病院リハビリテーション部) 黒崎育美(島根大学医学部附属病院リハビリテーション部) 福原翔(島根大学医学部附属病院リハビリテーション部)
学会名(会期・場所)、認定名等	第28回日本心臓リハビリテーション学会学術集会(オンライン)
演題名・認証交付元等	日本心臓リハビリテーション学会
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有・無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input checked="" type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容**①目的**

日本心臓リハビリテーション学会は心臓リハビリテーションにおける、高度な知識と技能を有する人材育成を目的とした、心臓リハビリテーション指導士(以下:心リハ指導士)制度を設けている。本院では、心大血管疾患に対するリハビリテーション依頼件数は年々増加傾向にあり、その重要性も高まっている。加えて、心疾患が日本の死因第2位である現代において、心リハ指導士は今後、院内だけでなく、地域における一次予防や二次予防を目的とした運動指導、生活指導など活動の幅は拡大していくものと想定される。心リハ指導士資格は5年毎の更新が必要であり、その要件に日本心臓リハビリテーション学術集会への参加が必須項目として明記されている。本研修の目的は、本院の心リハ指導士資格を有する理学療法士が指定された学会へ参加し、心リハ指導士の資格更新を目指すものである。

②方法

心リハ指導士を取得している本院理学療法士3名が6月11日~12日にオンライン上で開催される第28回日本心臓リハビリテーション学術集会に参加し、心リハ指導士更新のための単位を取得する。

③成果

学会の日程は上記の通りであり、両日とも参加した。講義においては心臓リハビリテーションの対象となる心不全患者や心臓血管外科患者に関する心臓リハビリテーションの意義、遠隔リハビリテーションに関する具体的な介入方法に加え、今後本院でも開始されるMitla clip術後のリハビリテーション戦略に関する最新知見について学んだ。講師は心臓リハビリテーションに携わる医師や看護師、理学療法士等であり、内容は具体的かつ実践的であった。また、国内のみならず海外での最新のエビデンスに関する報告や実践例も多く取り上げられており、すぐに臨床に還元できる内容と感じた。

また、本学会に参加することで、他院での診療体制や人員配置など心臓リハビリテーションを運営していく上での情報を得ることもできた。

本学会の参加により、心臓リハビリテーション指導士 3 名が更新に必要なポイントを取得することができた。現在本院には心臓リハビリテーション指導士が 7 名在籍している。心大血管疾患リハビリテーションの対象患者は年々増加傾向にあり、本院のリハビリテーション部としても専門知識を有する理学療法士による質の高い介入を今後も継続して実施していくとともに、常に最新の知見を患者に提供できるように努めていく。また、来年度以降、本院でも Mitral clip 手術が開始となる予定であり、専門知識を有する理学療法士が十分なリスク管理のもと、積極的な介入ができるように努めていく。